

 <p data-bbox="329 260 692 357">みずみどり</p>	<p data-bbox="775 183 1214 222">2009年9月15日 第74号</p> <p data-bbox="775 231 1214 270">発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p data-bbox="720 299 1275 357">年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</p> <p data-bbox="720 357 1008 386">E-mail : mizumidori@nifty.com</p> <p data-bbox="720 386 1275 415">〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ヒガンバナについて

9月の中旬になると、ヒガンバナが街のあちこちで目につくようになり、日本でも園芸植物になった観がある。以前は余り好まれず、主に田んぼの周りやお墓に植えられていたものだ。何もないところに突然、それも秋の彼岸ころ毒々しい花が咲きだすので気持ち悪がられ、地獄から亡霊でも現われたかと思われて、忌み嫌われたようだ。

ヒガンバナは咲く時季から付けられた名前だが、彼岸からの連想や花の姿、植えられている場所などから忌み嫌われた呼び名も多く、千にも達する別（異）名があると言われる。よく知ら



れた曼珠沙華は梵語で赤い花の意味だそうだ。別名を幾つか挙げてみると、赤い色からカエンソウ、ハナビバナとか タイマツなど、不思議な咲き方からキツネバナとかキツネノタイマツなど、また墓によく植えられたところから、シビトバナ、ホトケバナとかユウレイバナなどがあり、花が咲いているときに葉がないことから、ハミズハナミズの呼び名が園芸愛好者には知られている。

ヒガンバナには滅多に実が付かないが、これは染色体が3倍体の所為で、2倍体のものは原産地の中国に多いらしいが、咲く時季が少し早くて種をつけるコヒガンバナという種（2倍体）が国内にもあるようだ。花の色は赤以外に、純白、黄白色、黄色などがあるが、ショウキズイセンと交配種だそうだ。西欧では古くから好まれていたと言われ、ヒガンバナの仲間の学名には、ギリシャ神話の海の女神の名リコリスが入っている。

ヒガンバナに含まれる有毒な成分はリコリンで、炎症治療や食べた物を吐かせる薬になるほか防虫剤にもなり、田んぼの畦に植えたのも、畦に穴を開けて水漏れを起こすネズミを寄せ付けないのが狙いだと聞く。また、大飢饉のときに根を摺り下ろし晒して、澱粉を食べたと言われてい

るが、さぞや大変な作業だったのではなかろうか。

埼玉県の日高市がヒガンバナの名所の一つになっているが、区内では赤塚植物園や赤塚公園の崖線、少しまとまっているのが大門の見晴らし台公園脇にある浅間神社、最も沢山あるのが四つ葉2丁目の区立向口公園の一角(斜面)で200㎡ほどの群落(写真下)がある。各所で白い花も見られる。

ヒガンバナは殆んど人が植えたものだが、殖えると球根(鱗茎)が押しくら饅頭をして、一部の球根が押し出され、転げ落ちたところで根付いて繁殖し、大きな群落になると聞いている。あるものは川の水に流され分布し、また、あるものは海を渡ったかもしれない。

なお、ヒガンバナの植生や由来などを、44号(2004.9.15 発行)に釣巻さんが「ヒガンバナの謎」と題して、詳しく書かれているのでご参照ください。(猪鼻昭二)



西台公園の改修計画について板橋区長宛てに要望書を提出

西台公園が、半径250m内に住む住民参加者からなるワークショップによって改修計画が検討される、ということを知り、いたばし水と緑の会は板橋区長宛てに要望書を出しました。

西台公園は、環8工事によって削り取られたところもありますが、崖線樹林地にあり、区立の公園の中では自然が残っている方です。

木が茂りすぎて暗くて危険だという議会質問・苦情・要望が多々あって、住民ワークショップにより改修計画をつくることになったようです。どういう公園にするかという方向もすべてワークショップに委ねられているため、要望書は、ワークショップ参加者に対して、私達の意見を紹介してほしいという内容です。

「板橋区緑の基本計画」(いたばしグリーンプラン)には、「武蔵野崖線を中心として帯状に残存する樹林地は、板橋区の緑の骨格を形成する重要な基盤となっています。このため、このゾーンの樹林地と生態系の保全を目的として重点的な取り組みを進めていきます。」とあり、そのため、緑の基本計画には、民間樹林地を買収して公有地化することにより「板橋区の財産として永続的な保全を図る」と書かれています。区の財政状況が悪化して、計画どおり買収が進まなかったのはやむを得ないことですが、すでに公園緑地になっている崖線樹林地は少なくありません。これら崖線沿いの公園緑地を、板橋区の財産として生態系の保全を図ること、永続的な保全を図ることは、緑の基本計画に書かれた崖線樹林地の保全に他なりません。

下記は私達が8月に西台公園で行った昆虫調査結果をつけて、板橋区に出した要望書です。

板橋区長 坂本 健 様

西台公園の改修にあたって(要望)

西台公園の改修にあたっては、より魅力的な公園をつくりあげることが目的に、地域住民参加によるワークショップが開催されています。

私達は、西台公園は地域の公園であると同時に板橋区の崖線自然の大切な場所であると考えております。そこで8月に中台里山公園、サンシティ樹林地と比較する形で西台公園でも昆虫調査を実施しました。西台公園の自然の状況をご理解いただき、改修計画に反映させていただきたく下記により要望いたします。

1 ベイトトラップによる昆虫調査のあらまし

中台里山公園、サンシティの特定樹林地(もともとあった樹林地)および西台公園においてベイトトラップによる昆虫調査を実施しました。いずれもエサ(カルピス)を入れたペットボトルを加工したトラップ10個を虫がいそうな草むらや木の根元等に設置し、1週間後に回収しトラップにかかった虫を調べました(表参照)(昆虫は確認後同じ場所に放しました)。

付近の3地点の調査結果を比較すると、西台公園の自然度が他の2地点と比べて高いことがわかります。

例えば、西台公園では、アオオサムシの生息が確認されました。アオオサムシは、ある程度自然が残された場所にいる肉食性(ミミズなどを食べる)の昆虫で、後翅が退化して飛ぶことが出来ないのので、いったんその場所で絶滅すると余所からやってくることは期待できません。2000年、2001年に実施した昆虫調査と比べると、アオオサムシの生息域が減少しており、2008年の板橋区昆虫類調査によるとアオオサムシは赤塚公園(城址)と西台公園でしか確認されていません。西台公園にアオオサムシがいたということはまだ自然が比較的残っている証明と言えます。オオヒラタシテムシも数多くかかり、板橋区立の公園の中でもっとも自然度の高い公園のひとつということが出来ます。

なお、西台公園の樹林地は根元まで下草が刈られ、地面が露出し、土が流出している所が多くあります。今回の調査で、昆虫が多く入ったトラップは都有地に接するところ(正確には都有地の中)と、西側斜面下(民家の草地に接するところ)です。土がむき出しの斜面の木の根元や、斜面下の道路に面した植え込みの中(一帯は頻繁に草刈りされている)には昆虫

は1匹も入っていませんでした。

このことから、西台公園の自然は隣接する都有地や、民家の自然環境に助けられた面も大きいと言えます。昆虫が生息するためには自然の質と同様に、面積が広いことも大事なのです。

また、蝶では自然度が高い樹林地に生息するミズイロオナガシジミ（東京都区部絶滅危惧Bランク種）やヒカゲチョウ、コムスジ（東京都区部絶滅危惧Aランク種）などが2008年の板橋区昆虫類調査で確認されております。トンボではコノシメトンボ（東京都区部絶滅危惧Cランク種）、リスアカネ（東京都区部絶滅危惧Bランク種）が見つかっています。

表 ベイトトラップによる昆虫調査結果

	サンシティ	里山公園	西台公園
調査年月	2009.8	2009.8	2009.8
調査期間	7日	7日	7日
トラップ個数(回収個数)	10	10	9
アオオサムシ			1
オオヒラタシデムシ(成虫)			20
オオヒラタシデムシ(幼虫)			10
センチコガネ	4	2	4
エンマコガネの仲間	17	4	14
ツチカメムシ			2
アカビロードコガネ	1	2	
コメツキムシの仲間		10	
ゴミムシの仲間			1
ハサミムシの仲間		1	2
ハネカクシ		1	
オオモンシロナガカメムシ		33	
ケシキスイの仲間	1	4	9
コオロギ幼虫		18	3
その他	4	2	2
合計	27(7種)	77(11種)	68(12種)

2 改修にあたって考慮していただきたいこと

(1) 板橋区に特徴的な景観を形成している崖線樹林地としての価値

板橋区都市景観マスタープランには、「板橋を横断する豊かな自然地形と緑の景観」と題して「崖線樹林地が板橋区に特徴的な景観を形成している」と書かれており、西台公園を眺望する写真が掲載されています。

しかし板橋区内の民間の崖線樹林地は、マンション建設等により次々と姿を消しているのが現状です。したがって、西台公園のような公有地化された崖線樹林地には、その自然（植生や土壌）を保全していく主導的な役割があります。この樹林地は、(望ましくは周辺の畑や樹林地と共に)次世代に引き継いでいくべき自然財産であることを再認識してください。

(2) 生態系の保全

西台公園におけるアオオサムシ等昆虫類の生息やキンラン、ギンランの生育などから見て、当地は地域の公園であると同時に、板橋区における自然度の高い数少ない緑地です。そ

のため、改修にあたってはその生態系を保全するよう配慮してください。具体的にはこの公園は中に入って遊ぶレクリエーションの場というより、崖線の緑の立体的な景観、ヒートアイランドを抑制してくれる緑の塊、野草や生き物と共存する空間として、立ち入り制限区域を設けて表土を保全し、下草刈を抑制するなどの管理を検討してください(現状では、一律に、かつ徹底的に下草が刈られ、固い地盤がむき出しで植物も生えない林床が増えています)。

かつて公園の東斜面下に生育していた豊かな林縁植物が、環8工事によって消失したことは残念ですが、斜面下の東端にはその名残(タラノキなど)があります。林縁植生を保全するよう、むやみな刈り込みは控えてください。

花壇や園芸種の植栽は、既に植栽が行われている所のみ限定し、自然樹林地はそのまま残すようにしてください。

3 西台公園改修にあたってのワークショップは、公園の自然特性をご理解の上ご検討下さい。

他の区立公園では見られない生物種が生息していることは、板橋区が2008年に実施した「板橋区昆虫類等実態調査()報告書」でも記されております。私達が実施した昆虫調査は近くの同様の緑地に比べて自然度の高さを裏付けるものです。ワークショップに参加された方達には、この西台公園の自然特性と私達の要望内容をご紹介いただき、計画づくりにあたりぜひとも考慮していただきたくお願いいたします。

平成21年8月26日

いたばし水と緑の会会長 鈴木 信子

西台公園で見た 生き物たちのリサイクル現場

昨年同様、7月末～8月にかけて生活者ネットワーク・板橋で中台の樹林地(サンシティの特定樹林地と中台里山公園)の昆虫調査をしました。その樹林地の自然度を調べるのが目的です。

樹林地の地面には、腐った落ち葉等を食べる虫やミミズ、動物の死骸や糞を食べる虫、それら地面にいる生き物を食べる肉食の虫などがいますが、多くは夜行性だったり、茂みの中や落ち葉の下に隠れていたりして、私達はほとんど気づきません。

調査の方法はペットボトルを胴体で切り、ボトルの口を中にさし込み、カルピス(えさ)を入れたトラップ(わな)を笹藪や落ち葉のたまった木の根元等に置いておき、1週間後にトラップにかかった虫を回収し、虫の種類と数を記録します。会で何度か調査をやったので、蚊の大群にも驚かず、手慣れた調査です。後日、西台公園で公園改修が計画されていることを知り、私達は西台公園の調査も追加しました(結果等、要望書に書いてあることは省略します)。

結果の表を見ると、昨年同様、広大な緑地面積を誇るサンシティの樹林地では昆虫の数も種類数も貧弱でした。それに比べて西台公園では生き物の賑わいがあり、里山公園は数では西台公園

を上回るものの、昆虫の種類から見た自然度は西台公園に劣ります。

西台公園にのみ生息していた「アオオサムシ」(写真左)は、3cm近くある緑がかった金属光沢のきれいな虫です。漫画家の手塚治虫がペンネームを「オサムシ」からとったという話は有名ですね。アオオサムシは、昨年の区の調査では赤塚城址と西台公園でしか確認できなかった虫です。1990年、1991年の住民参加で実施した調査では、成増4丁目緑地、成増5丁目公園、西徳第2公園、サンシティ、それに赤塚公園のすべての斜面林にいたのに……。釣巻さんによると、アオオサムシの生息にはある程度の広い緑地が必要で、畑や周辺の緑が消失して、その緑地が孤立すると絶滅するのではないかと思います。西台公園でかかったアオオサムシは、この地域に自然が比較的残っているという証明になります。

また、西台公園にいた「オオヒラタシテムシ」は2cm位の黒い色をした虫で、動物の死骸を食べるので「死出虫」と書き、昆虫図鑑には「ネズミなどの死骸を見つけると下の土を掘って一晩で土に埋め、死体に卵を生みつける・・・」と書いてあり、小さな虫が大きなネズミの死骸に挑んでいる写真がでていました。すごいですね。森の掃除屋さんです。シテムシは西台公園で30匹かかりましたが、里山公園でもサンシティでもかかりませんでした。また西台公園の前の道でシテムシの幼虫がアリと一緒にミミズの死骸にたかっていた(写真右)。これは、赤塚城址ではよく見かける光景で、たかが虫やミミズの死骸ですが、誰が片付けるか(食べるか)によって、緑地の自然度が評価できるわけです。



センチコガネとエンマコガネは3カ所で見ました。どちらも糞を食べるコガネムシの仲間です。センチコガネは紫がかった金属光沢の2cm位のきれいな虫で、名前の由来は「雪隠(便所)コガネ」。エンマコガネは1cmにも満たない小さな虫です。彼らは、糞を食べ、土の中に糞を運び入れて卵を生み、幼虫は糞を食べて育ちます。

犬の糞はどこにでもあるので、糞を食べる虫はどこにでもいるように思われますが、例えば前野公園や大山公園のように木はあっても地面が固く人工的な環境ではありません。

生き物たちのリサイクル活動には、やはり、草むらがあり、落ち葉がたまり、土がやわらかい緑地が必要なようです。ところが公園ではやわらかい土はなかなか見あたりません。公園では当然のように繰り返し草刈りされ、落ち葉も掃き去られます。斜面に多い樹林地では年数がたつと表土が雨で流され、人の立ち入りもあって固い地面がむき出しになっていきます。

西台公園も長年繰り返し草刈りされ、あちこちで地面は固くつるつるです。虫たちがトラップにかかったのはかろうじて残された下草のある場所だけでした。

つまり、「ただ木が生えていて地面が死んでいる緑地」と、「下草が茂り落ち葉の下の腐った植物や動物の死骸や糞を餌とする昆虫がいて、**効率よく**土に戻し、また木の栄養にしてくれる、自然豊かな緑地」があることがわかります。緑のまちづくりには、そういう緑の違いにも目を向けてほしいと思います。

追記：後日、不動の滝公園に行ったら、上の広場に犬の糞がありました。こういう場所なら糞を食べる虫もいるかな、と思いながら見つめた瞬間、糞がグラッと揺れました。棒でおそろおそろ糞をひっくり返したらエンマコガネが数匹食事中。なるほどね。そこで自宅近くで4つの糞ウォッチングをすると・・・2個はそのままの形で干からびていました。2個の糞にエンマコガネとハサミムシのような虫がいて、3日ほどで糞は半分以下になり周りには鹿沼土のようになったコガネムシの糞が散らばっていました。エンマコガネ達がいた糞は空き地のそばと樹林地際の植え込みのそば。物質循環とか、生態系とか理屈ではわかっているつもりでも、死骸を食べるシテムシを見たり、糞を食べるコガネムシを見たりすると、改めてたいへんお世話になっていることを実感します（坂本 郁子）。

活動・観察の記録(2009年7月～8月)

7月18日(土)赤塚ため池・城址観察会 エコポを見て親子2組が参加。バッタ広場で子ども2人追加、タマムシとカブトムシに子ども達は大喜び。



ニイニイゼミ(鳴)、アブラゼミ(鳴)、ニイニイゼミ(抜け殻)、アブラゼミ(抜け殻)、バッタ類の幼虫(クルマバッタモドキ、ウマオイ、イナゴ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、クビキリ)、カマキリ、エンマコオロギ、モンキチョウ、ベッコウハゴロモ、ナナホシテントウ、オオヒラタシテムシ(幼虫)、タマムシ、カブトムシ、イラガ、ダイミョウセセリ、シオヤアブ、コウヤツリアブ

7月25日(土)バッタ広場植生管理

梅雨明けしてもぐずついた毎日から一転してこの日は真夏の陽射し。植物も繁茂。ガガイモ、ハエドクソウの花があちこちに咲く。蕾がついたブタクサ、実がなりそうなヨウシュヤマゴボウ、いつも元気なネザサ、セイタカアワダチソウ等を抜いたり、刈ったり。ヒメムカシヨモギ等も繁茂。ササの根元からアオオサムシやゴミムシ(セアカヒラタゴミムシ)が飛び出すーこういう茂みを好む虫も多いのに草を刈る矛盾に悩んだりして。トンボ池でショウジョウトンボ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボ、城址ではナツアカネ(多数)。

8月22日(土)バッタ広場植生管理を1時間で済ませ、ミニトンボ池の生け垣刈り込みと草刈りに移り、近隣に配慮して生い茂ったオオブタクサと木からみついたクズを取り除いた。生き物のためのピオトープなので、「ほどほどの草刈りでよし」としました。

バッタ広場がテレビに出ます 9月20日(日)午後6時30分～7時「テレビ東京」で「空き地の生き物どうなってるの?」(仮題)見てね!!

活動のお知らせ

運営委員会は原則として第4土曜日の作業・観察会の後に赤塚ため池公園そばのラームン「しらかば」で行い、報告や活動内容などを相談します。どなたでもお気軽にご参加ください。

午前中の作業の状況で時間が多少ずれることがあります。雨天で作業が中止の場合も運営委員会は開きます。からないときは、坂本(090-4618-1295)に御連絡下さい。

10月運営委員会： 10月24日(土) 12:30~13:30

11月運営委員会 11月28日(土) 12:30~13:30

会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：11月21日(土) 12:30~

変更する場合もあるので、事務局にお問い合わせ下さい。

活動の問い合わせは事務局瀬田まで(3969-7124)

会では赤塚城址周辺で、私たちが作ったビオトープを中心に自然の変化を観察したり、ゴミ拾いや、ビオトープの環境整備を行っています。観察会は原則として雨天も実施します。

光が丘公園すすき原っぱ見学

9月19日(土) 10:00 光が丘公園バードサンクチュアリ前集合または
9:30 東上線成増駅集合

バッタ広場ササ刈等と生き物観察

9月26日(土) 10:00~12:00

10月17日(土) 10:00~12:00

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

10月24日(土) 10:00~12:00

「鳴く虫の観察会」

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

11月21日(土) 10:00~12:00

赤塚城址クリーン作戦 ため池や城址の徹底ゴミ拾いです

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

成増4丁目緑地調査(の植生調査)

10月3日(土)、11月7日(土) 10:00~12:00 東上線成増駅集合

毎月1回の定点観察です。(連絡先)坂本090-4618-1295

あなたも会員になってください(年会費2000円：振込先は表紙に記載)

いたばし水と緑の会の活動はすべて会員の会費によってまかなわれています。主な用途は、会報郵送料、印刷費、ビオトープ池維持管理のための資材費、コピー代などです。